

IV-14 上勝町ヤッホー調査に見る市民参加型自然体験活動プログラムデザイン

(有) 環境とまちづくり 正会員○花岡史恵 正会員 福田景子
日本建設コンサルタント(株) 正会員 澤田俊明
徳島大学 正会員 上月康則 正会員 山中英生

1. はじめに

徳島県勝浦郡上勝町には、勝浦川・高丸山・棚田など多様で豊かな自然環境・風土が存在する。平成14年度から、学校教育では「総合的な学習」が導入され、川をフィールドにした環境教育や自然体験学習等が、今後一層重視されてきた。そのような状況の下、平成14年1月から、上勝町正木ダム湖とその周辺において、上勝町ヤッホー調査が実施された。本研究では、市民参加型自然体験活動プログラムデザインとしてのヤッホー調査について報告する。

2. 上勝町ヤッホー調査の概要 1)

上勝町ヤッホー調査は、参加者が直接声を出して山彦が返ってくる場所を調査し、発見した場所に自分の好きな名前をつけて、「ヤッホー地図」に名前を登録する仕組みとなっている。ヤッホー調査の参加者は、町内外を問わず一般市民を対象としており、調査活動そのものを市民参加型自然体験活動プログラムの一つとして位置づけている。また調査期間は、1月から3月までとしているが、1年に一人一箇所の「ヤッホーポイント」が登録できる仕組みとなっている。これは、毎年一人一箇所の登録を可能とすることで、継続性を確保している。ヤッホー調査の概要を表1に示し、調査の仕組みを図1のフロー図に示す。

表 1 ヤッホー調査の概要

項目	概 要
調査名	ヤッホー調査 in 上勝
主催等	主催：上勝・環境デザイン研究会ヤッホー調査事務局 共催：環境と川と教育を考える研究会 上勝自然体験学習研究会 後援：上勝町教育委員会
調査場所	上勝町内
ヤッホー調査の種類と実施者	ヤッホー調査：一般市民 認定：ヤッホー調査事務局・やまびこ認定士 登録：ヤッホー調査事務局・上勝町教育委員会 ヤッホー地図作成：ヤッホー調査事務局 ヤッホーHP作成：ヤッホー調査事務局

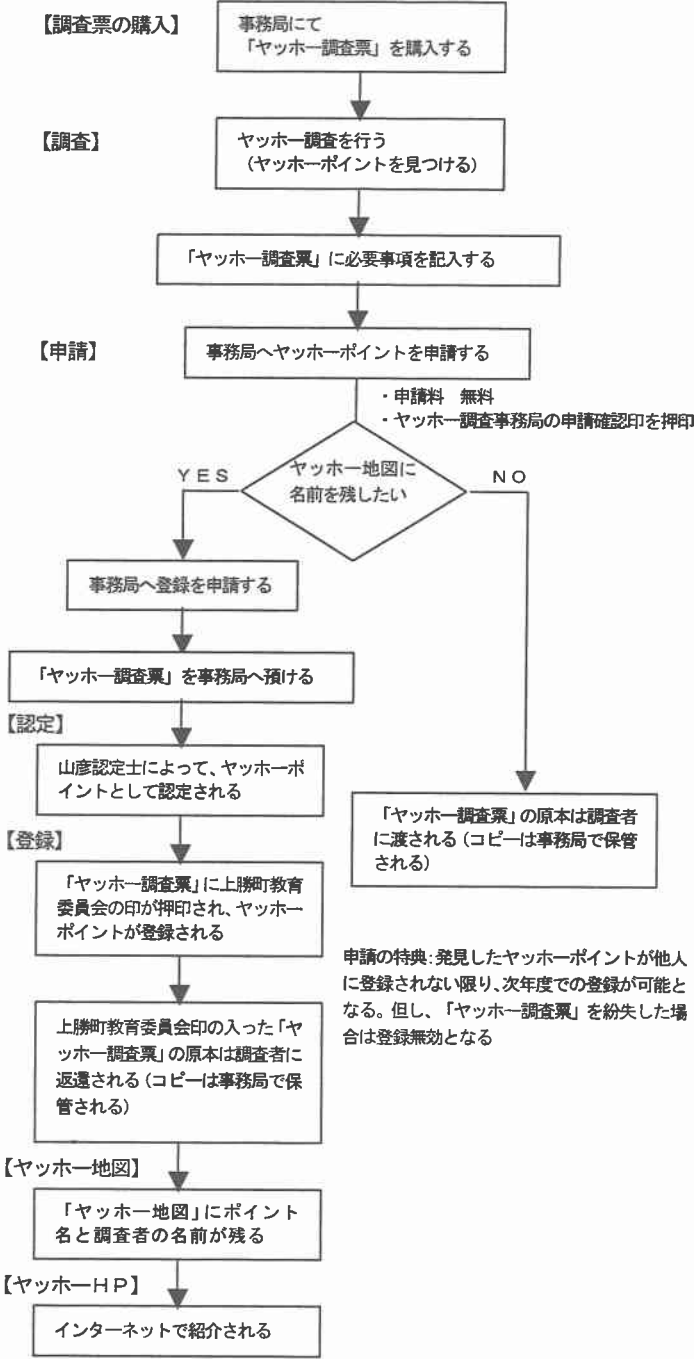


図 1 ヤッホー調査フロー図

3. 上勝町ヤッホー調査の目的と直接的効果

本研究における上勝町ヤッホー調査は、上勝町の正木ダム湖の静かな水面と周辺の豊かな自然を活かすことで、川の魅力やダム湖の再発見に寄与し、広

く一般市民の参加を呼びかけると共に、学校教育の「総合的な学習」にもリンクした自然体験活動プログラムのアクティビティの一つとして活用されることなどを目的としている。

ヤッホー調査の直接的効果としては、自然の中で大きな声を出すことで心身共に健康が得られること、体験することでどのような場所で山彦が返ってくるのかを自分自身で探すこと、参加者が共に地域のポテンシャルに気づくこと、そしてそれらが地域の活性化に寄与すること、などがあげられる。

4. ヤッホー調査の中間報告

ヤッホー調査は、調査期間中はいつでも受け付けられる仕組みとなっているが、平成 14 年 2 月に、第 1 回ヤッホー公式調査が実施された。この公式調査は、「河川魅力度調査」の一環として、上勝町正木ダム湖周辺で実施されたもので、中間報告として、この公式調査を含む 2 月中に登録が行われた 12 箇所のポイント名一覧を表 2 に示す。

表 2 ヤッホーポイント登録一覧表（平成 14 年 1 月～2 月末）

番号	ポイント名	番号	ポイント名
1	コスイ 1 号	7	オオカミショウネン S
2	I T A D A K I	8	まぼろしのタエコ
3	スギコダチノビョウブ	9	シーマのモリ
4	たかたか	10	おとのかいろう
5	赤い橋のみえる	11	トシとフミエ
6	ゆうへい	12	うさ晴らし

5. ヤッホー調査のプログラムデザイン

自然体験活動におけるのプログラムデザインには、「面白いこと・分かりやすいこと・ためになること」の 3 要素が必要とされる。ヤッホー調査は、この 3 つの要素とともに、表 3 に示す主体的コミュニティデザインの評価指標の 6 つの要素を考慮してプログラムデザインされている。さらに、本ヤッホー調査では、上勝町教育委員会における「登録」という行為により私的活動が公的評価を得られる要素もプラスされている。

6. ヤッホー調査によるプログラムの展開

ヤッホー調査は、上勝町における市民参加型自然体験活動プログラムとして活用できると共に、地域の人々との協働・連携を深めることにより、新たなプログラムへの展開にも期待できる。上勝町の地域

表 3 主体的コミュニティデザインの評価指標²⁾とヤッホー調査の特徴

評価指標	内 容	ヤッホー調査
場の原理	コミュニティデザインを行う 実在の「場」があること	●山彦の返ってくる地域 資源としての場があるこ と
成功の原理	当事者の行為の成功により、 当事者が報酬を受けること	●山彦の間こえるポイント を見つけると自分の好 きな名前が付けられ地図 やHPに作成されること など
刺激の原理	成功の原理における当事者の 行為と報酬の関係が不確定で なく、ある程度決まっている こと	●見つけたポイントが地 図になり、良いポイントに は☆マークがつけられる こと、山彦通になると「や まびこ認定士」試験が受け られることなど
価値の原理	当事者の行為が、当事者にと って価値があること	●活動が、自然とふれあえ ること、心身共に健康的で あることなど
変化・複合 の原理	成功の原理、刺激の原理が単 調でなく、変化に富み、当事 者が飽きないこと	●調査票の記入、申請、登 録などのシステムをもっ ていることなど
継続性の 原理	成功の原理、刺激の原理が単 発的でなく、継続すること	●1 年に一人一箇所の登 録が可能であることなど

＋●私的活動が公的評価（上勝町教育委員会登録印）を得られること

資源を活かした自然体験活動のプログラムは、学校教育の「総合的な学習」への直接的な支援および指導者育成、さらに小中学校の宿泊訓練・修学旅行等への誘致と、今後の上勝町における自然体験活動へのプログラムデザインの開発や人材育成等への展開が望まれる。

7. おわりに

本研究における上勝町ヤッホー調査は、川の魅力やダム湖の再発見に寄与するとともに、学校教育の「総合的な学習」にもリンクした、生きた環境教育、生きた自然体験活動が実現できるプログラムであると評価できる。そして今後の展開のためには、さらなる自然体験活動プログラムデザインの開発とそれに携わる人材育成等が求められる。

謝辞：本研究は、「環境と川と教育を考える研究会」を通して、平成 13 年度河川整備基金助成の研究として実施されたものである。

【参考文献】

- 1) ヤッホー調査事務局：ヤッホー調査要領、2002 年 1 月
- 2) 澤田俊明：交換とアイデンティティを用いた生活環境把握のアプローチ、土木学会・環境システム研究 Vol.26、p.p219-230、1998 年 10 月